# 第５回庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会　会議録（摘録）

１．開催日時　　平成 30 年７月 18 日（水）　15：00～16：30

２．開催場所　　庄原市役所　５階　第１委員会室

３．出席委員　　西村　和之　委員長・胡子　悦子　委員・住田　鉄也　委員
　　　　　　　　西田　学　　委員　・藤谷　健司　委員・八谷　るりこ　委員

４．欠席委員　　藤谷　善久　委員　・本平　正宏　委員・松田　智仁　委員

５．出席職員

| | |
|---|---|
| 企画振興部企画課長 | 東　健治 |
| 企画振興部自治定住課長 | 森岡　浩 |
| 教育部生涯学習課長 | 花田　譲二 |
| 企画振興部企画課企画調整係長 | 足羽　幸宏 |
| 企画振興部自治定住課自治振興係長 | 中村　雅文 |
| 教育部生涯学習課社会教育係長 | 中島　恵美 |
| 企画振興部企画課企画調整係 | 原田　淳司 |

６．傍聴者　　８名

７．会議次第　　別紙のとおり

８．会議経過　　別紙のとおり

# 第５回　庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会　次第

■日時　平成 30 年７月 18 日（水）15：00～
■場所　庄原市役所　５階　第１委員会室

１．開会

２．議事

（1）アンケート結果の分析について　資料１

（２）市民会館・庄原自治振興センターを改修と想定した場合のプランについて　資料２

（3）今後の検討委員会のスケジュールについて　資料３

３．閉会

# 会　議　経　過

１．開会　東企画課長　挨拶

２．西村委員長　挨拶

３．森岡自治定住課長　挨拶（自治振興センターの所管課変更）

４．議事

（１）アンケート結果の分析について　資料①

事務局：資料①を説明

委員長：椅子が大きなキーワードとなりそうだ。席数を維持しながら、席幅を広くして座り心地の改善をするのは物理的に不可能である。このことを今後どう考えるか？また、利用者の意見、未利用者の意見、この差をどのように考えるかが重要となる。

委　員：未利用者はコストを気にすると思う。

委員長：市の財政状態が芳しくないことから、未利用者は、利用者に比べてその点が不安なのではないか。

（２）市民会館・庄原自治振興センターを改修と想定した場合のプランについて資料②

委員長：平成27年度に改修の見積もりをされたとの話があったので、今回改めて出してもらった。実際の工事のときは当然金額は上下すると思う。

事務局：資料②を説明

委員長：プランA～Fの説明をいただいた。このプランについて、各委員からご意見をいただきたい。

委　員：800席ではなく、800弱の席でも大きなイベントを誘致できるのか？

委員長：NHK等に直接市役所からヒアリングをしているわけではないが、利用者からの聞き取りにおいて、800席という席数がでてきている。

事務局：NHKの公開録画やのど自慢であると1,000人前後の規模が目安となり、最低でも800人程度は入る施設である必要があるが、何人以上の規模でないと対象外とするというものがあるわけではない。年間何回満席となるイベントがあるのかが問題となるが、現状、満席になるのは年に何回か程度である。

委　員：780席も約800席とみなされるのか？

事務局：市民会館は立ち見を考えていないが、立ち見も含めて1,000人以上としているホールもある。しかし、消防の指導により立ち見を含まず、座席数のみで対応したい。780席では800席まではないということになる。

委員長：現在と同じ座席にした場合の座り心地はどうなるのか。

事務局：現在、硬いと言う印象をもたれているが、椅子の取替えを行い、座り心地の改善を図っていく。

委　員：席幅は変わらないが、前後の広さも変わらないのか。

事務局：府中市のホールが庄原市と似ており、府中市においては、中央通路より前側の席を替え、後ろの席については現状維持の形をとられた。前後の幅についてはそのままではあるが、座席の形状(席の厚さを薄く)を変えることで対応をされた。市民会館の構造上、座席の前後を変更するとなると大掛かりなものとなるため、人が通りやすくなるような座席に取り替えることで対応をしていきたい。また幅を広くすると同時に肘置きを２つ設置されたが、庄原市として全ての座席をそうするのか、中央通路より前の席だけ行うのか検討を行う必要がある。

委　員：府中市の席幅についてはどうなのか？

事務局：改修前 450 ミリ、改修後 550 ミリとなっている。

事務局：市民会館の背もたれは厚いが、最近のものは薄くて座り心地が良い。背もたれが薄くなることによって、座る位置が奥になり、その結果、前後幅を変更しなくても、席の前のスペースを確保できるようになる。

委　員：幅は 440 ミリないとしんどいのか。

事務局：手を椅子の中に入れるようになる。

委員長：取り替えるのは幅や大きさだけの問題ではない。

委　員：市民会館と自治振興センターは同一の建物にないといけないという考えのもと、あり方について検討しているが平成 27 年度に試算された経緯は？また、自治振興区の役割を考慮した上で、ソフト面もハード面も抜本的な変更を考えていくべきである。

委員長：限られた予算の中どうするのかを考え、そこからスペースの問題や予算のことを考えるため、この会議では、具体的なものに一歩踏み込む前にコンセンサスとして市民の方の意見を踏まえて提案していく。

事務局：平成 27 年度に教育委員会において、老朽化や座席が狭いといった意見をいただく中で、耐震等の関係もあり、予算の都合上、改修をしながら長寿命化計画をベースに進めて行こうとしたのが始まりである。

委　員：自治振興センターは地域づくりの拠点施設であるため、専門家や職員の方の意見を十分に踏まえた上でレイアウト等を考えていくべきである。

委員長：市全体を考えると、庄原自治振興センターが、中央の自治振興区として中ホールが必要だとする考えが、他の市民の方と共有できておらず、その部分の説得性が伝わりきれていない。

事務局：欠席している委員からの意見紹介

論点：

①ホールの座席数②中ホールの増設③自治振興センターの機能強化

根底にある考え方：

1．今あるモノを最大限生かす、生かすための経費もコストベネフィット評価で検討

2．無いモノは借りる、あるいは受益者負担型等で民間に設置いただく

論点に対する結論：

①基本は現行926席(座り心地改善は実施)、車いすスペースの増設検討

②中ホールは増設しないほうが良い

③プランDにて想定されている改修(二階研修室洋室化、実験実習室改修、談話室改修)に加えて、ロビーの一部をサロン化し、談話室の二階部分を研修室に増築するなど(必要であればさらに)の改修・増築を検討

委員長：市民会館の耐用年数はどうなのか。

事務局：鉄筋コンクリート造の建物の耐用年数は65年といわれている。建築年度が昭和52年であるため、建築から40年近く経過しており、基準的な数値でいうと、仮に改修するとなった場合、これから20数年使用することとなるので、20数年後を見据えた改修が必要となる。将来的に、いつかは改築、建替えを行うことになる。

委員長：アンケートを見ても、今の段階で建て替えを望む声は少ないと思う。今あるものを使えるところまで使うという考えが多いと思う。

事務局：改修となった場合には、改修内容等について、利用者の方の意見やアンケート結果を踏まえて、方向性を考えていきたい。

委員長：自治振興センターの機能をはっきりさせる必要がある。

委　員：20年後の人口は減少しているので、その点を踏まえ、類似の機能をもつ施設は合併し、ひとつの文化施設に統合するなどの方向性もこの検討委員会で考えていくべきである。田園文化センターについては、利便性、また借地に伴う経費等課題があると聞いている。10年後今回と同じ議論をするのではなく、今回ある程度方向性は示すべきである。

委員長：市民ホールと自治振興センターのあり方を検討し、その先に田園文化センター等他の施設の改修の方向性も出していかなければならない。

事務局：田園文化センターについては、今後のあり方について検討している。市民会館及び自治振興センターの方向性が決まることによって、市街地の公共施設のあり方が影響されると考えている。

委員長：今後、複合施設とするかどうかを検討していく中で、耐用年数の問題が出てくるため、各施設の耐用年数の時期について事務局から提示いただきたい。

（3）今後の検討委員会のスケジュールについて　資料③

事務局：資料③を説明

第７回検討委員会で意見集約できれば、第８回は省略する可能性もある。ま

た、市民会館と庄原自治振興センターは年内に市としての結論を出し、他の市街地公共施設は、来年２月くらいに意見集約を行いたいと考えている。

16：30 終了

以上、議事の経過ならびにその結果を明確にするため、本会議録（摘録）を作成し、会議録署名人が次に署名する。

平成 30 年 7 月 18 日

会議録署名人　西村知之

会議録署名人　藤谷 健司